



## 留学報告

川村卓哉  
(ハワイ大学マノア校)



高校時代に短期留学をした経験から、海外大学への留学に憧れを抱きながらも、英語力の向上もなくいつの間にか過ぎ去った学部生時代。会計研に入学した理由の一つには、英語力を向上させたい、できれば留学経験とともに、という思いがありました。本庄財団によるハワイ大学との提携プログラムでその思いを叶えられたのはとても幸いなことでした。

入学時の英語力はそれほど高くなく、8月の論文式試験終了までは、英語に触れる機会は管理会計英文外書講読のみで、かろうじて英語力を維持していた状態でした。論文式試験終了後に留学プログラムへの参加を決意し、TOEFL試験対策の自習や清水ゼミでの英語論文の輪読、ドーラン先生のProfessional Presentationsなどに取り組んだ効果もあり、最低限のスコアを達成し、ハワイまでたどり着きました。

ハワイ大学では三澤先生の国際金融の講義、Hatanaka先生の上級財務会計の講義などMBAコースの講義を履修し、さらには管理会計、ファイナンスの講義などを聴講させて頂き、英語漬けの日々を過ごしています。

金融関係の授業では、金融教育の本場アメリカのテキストを用いて、企業活動における金融の重要性を学ばせて頂き、非常に良い経験になっています。特に、三澤先生の実務経験やケースを交えたお話からは、国際的に活躍できる会計士として不可欠な知識を吸収することができました。国際ヘッジ取引に関する意思決定や、海外投資に関する資本予算作成などに関する講義は、日本で本格的に学ぶ機会が少ないため、貴重な経験です。この経験は会計士としての幅を広げ、保証業務、非保証業務の両方に役立つものになるだろうと感じています。

また、USCPA受験を計画して渡航してきたこともあり、管理会計、財務会計の授業は非常に興味深いものがあります。管理会計の授業では実務を想定したディスカッションやエクセルを活用したレポートなどを通して、英語力・管理会計の応用力の両方が鍛えられたと感じました。アメリカの学生のエクセル、プレゼンスキルの高さにも刺激を受けました。財務会計の講義では、日本の基準との違いや米国会計基準におけるコンバージェンスの影響などを肌で感じる事ができ、将来にいきる貴重な体験ができています。授業のスピード、課題の多さなど大変だと感じることも多いですが、それも含めてとてもよい経験です。

ハワイという環境も留学に大きくプラスに働いています。日本に興味をもっているアメリカ人の友人も多く、彼らと話しながら様々な観光地で時間を共有することは英語力やモチベーションを高める上で非常に有意義な経験です。大学ではもちろん英語が必須ですが、日本食や日本人慣れた方々が多いことは、留學生活の不安を和らげてくれました。

留学当初は様々な困難もありましたが、次第にこちらの生活にも慣れてきたので、授業や試験でよい成果を残して帰国したいと考えています。

国際的に働いてみたいと考えている1年生の方々は、この夏から会計研の講義などで積極的に英語力の向上を図り、留学の夢を叶えると、将来的にとってもよい経験になると思います。ここでは伝えきれない様々な思い出もありますので、興味があれば帰国後に是非話しかけて下さい。

2010年度三澤本庄国際奨学金・ハワイ大学短期留学の受付は11月20日締切です。  
掲示等で詳細を確認のうえ、奮ってご応募ください。



## 留学報告

山本 有希子  
(ハワイ大学マノア校)



2008年夏より、ハワイ大学大学院アカウンティングスクール(University of Hawaii at Manoa, Shidler College of Business, School of Accountancy)に留学をした。

留学してよかったことは、オンラインと違い、いろいろな学生とのグループワークを通じ、考え方の相違点が浮き彫りになり、理解度も速まったと感じられるようになったことだ。そして、プレゼンテーションでは、UHの学生は、かなり多くのプレゼンの経験を積んでいる上に、そのことから自分の魅せ方をよく知っており、まるで紙芝居のような展開のすばらしさを持っていた。また、ディスカッションの機会も多くあったが、ディベートというよりも、いろいろなアイデアを共有し、与えられたテーマをディスカッションを通じ、最良のものに作り上げていくようであった。

そして、課題では実際の米国の会社を使った財務諸表などの比較事例を分析したり、2008年の金融ショックによる会計基準の変更や、米国会計基準と国際会計基準の比較検討など、タイムリーなトピックにより、今の会計の実体が理解でき、体系的に会計を学び、会計研から会計の勉強を始めた未熟な自分でも、楽しく引き込まれていくように会計に興味を持つようになった。また、実際の体験として後期からインターンシップを始め、今まで学んだものが実務でどのように役立つかなど実践的で生きた会計を学ぶことができた。

修了式では、角帽やガウンを着たが、その際、タッセルとフードの色は、各学部ごとに緑・紫・黄色・白・ピンクとカラフルで、アロハシャツを思わせるほど鮮やかな色で、私が学んでいるBusiness Collegeは、Sapphire Blueであった。その時、友人と、自分たちのカラーについて話した。Sapphire Blueは、冷静沈着なイメージで納まっていたような感じであったが、友人が「Business Collegeの色というと、"green" だよな」と言い、理由を聞くと、「greenといえば、money colorだよ。」と言っていた。その時、かつて私が大学時代、留学したイギリスで、国会議事堂の見学をした時、エリザベス女王のいる上院は赤で、首相がいる下院では緑で統一された部屋だったことを思い出した。そこでは赤はroyalのイメージの色、緑はloyalのイメージの色だというように聞いた。それぞれの国で、一つの色でさえイメージや表し方が違うことを感じる事ができた。

この一年という期間は、毎日が発見と失敗の連続だったが、留学してよかったと思うことが多くあった。最後に、私の場合、国際会計コースの一期生として常に前例がなく右往左往の手探り状態であった反面、早稲田の諸先生方、ハワイ大の諸先生方、そして支えてくださった方々に、優しく接していただき、また、ご指導いただけたことで、本当に自分の力となり、留学を終了することができたように思います。

ありがとうございました。



### 学生・教職員懇親会 7月8日(水) 国際会議場第一会議室



試験や秋学期の科目について熱心に質問する1年生が印象的でした。  
軽食のアイデアも引き続き募集しています。次回は2010年1月20日の予定です。

